

※ 考生請注意：本試題不可使用計算機。請於答案卷(卡)作答，於本試題紙上作答者，不予計分。

一、翻譯以下篇章。(25%)

「言語の知識

言語学では、コンテキストから独立した単語や文の意味を扱う分野を意味論といい、コンテキスト内で発話の伝える内容が受け取られる、すなわち解釈される仕組みを扱う分野を語用論という。文の意味はその言語の語彙や文法を知っていればわかる。そのための知識は私たちの頭の中にある、わりあい安定した知識である。しかしそこから相手の意図を理解するためには、いわゆる「言語」の枠に収まらない、さまざまな能力が関わってくる。このような能力とは、具体的にどのようなものだろうか。ここで重要なのが、観察される事実をもとにその場にふさわしいやり方で、相手の意図をはかること、すなわち推論する能力である。」

(大堀寿夫編 2004『認知のコミュニケーション』大修館、p. 7)

二、閱讀下列文章後，請說明該作者對過去的移民研究所提出的批判為何？又提出以移民做為方法時的中心課題為何？(回答約 250 字) (25%)

「人の移動は、社会学、地域研究、文化人類学、歴史学、法学、政治学、経済学などの社会科学、さらには思想や哲学、文学などの人文諸科学を含めた、多くの研究領域において、さまざまなテーマと関わりながら、論じてきた。しかし、境界を越える、あるいは境界を作り出す人の移動は、これまで基本的には主要な研究テーマとして取り上げられることはほとんどなく、研究対象の周辺に置かれてきた。さらに、移民研究においても、移動する人々は周辺化されてきた。なぜならば、のちに述べるように、人の移動はあくまでも一時的で例外的な出来事であり、移動そのものは正常からの逸脱と捕らえられてきたからである。

「逸脱」を扱う移民研究の課題は、移民研究者の恣意性に任せられ、移民政策、移動の目的や動機、送り出し／受け入れ社会の変容など、移動がないと想定される場から取り上げられた。その恣意性を支えてきたのは、移動する人を、暗黙のうちに、しかも無自覚に、管理される対象と考えてきたことにある。移民を対象とする研究者は安定した一定の領域、固定した場を正常な位置として想定し、移動する人を例外として観察してきたのである。

グローバルな課題として人の移動を問うということは、固定したと考えられてきた場の揺らぎから人の移動を問い直すこと、を意味するのである。すなわち、固定した場と移動する人という、これまで暗黙のうちに想定してきた枠組を再考する試みである。グローバリゼーションと呼ばれる時代は場所の揺らぎの時代であり、現代の移民研究が抱えるテーマは、固定的に考えてきた場所の問い直しである。そこで課題となるのは、移民を眺める場、移動する人のいるべき場所あるいは戻るべき場、を前提としてきた研究の方法である。

（伊豫谷登士翁 2011『移動から場所を問う』有信堂高文社）

三、下記の引用文を読んだ上で質問に答えてください。(25%)

本輯の民謡は領臺當時に流行してゐたるものから、日支事變後の皇民化運動激しき時世に至る種々の歌が含まれてゐる。これらの歌には、何らの虚飾もなく、又何らの自負もない。民衆の生活がありのままの姿で表はされてゐる。読者はこれらの歌を通じて、民衆の生活を、思想を感情を、更に又、風俗や習慣を最も端的に知りうると考へる。

或は又、これらの歌のうちには、藝術的に秀れたものも少くない。これらは世の文學に携はるものに新しい刺戟を與へることにならう。

—稲田尹「自序」、『臺灣歌謡集 第壹輯』、
1942年、1頁より—

問：著者の稲田氏は「歌謡」に対してどのような期待をかけているのか。「皇民化運動」にも言及しているが、それと「歌謡」とは、具体的に如何に関係していると考えられるのか。また、「新しい刺戟」ともあるが、それは如何なる考え方に基づいているのか。できるかぎり引用文の歴史的文脈にしたがって簡潔なマンダリンを用いて答えてください。

四、下記の引用文をわかりやすいマンダリンに訳してください (25%)

（大衆文学は）一般的には大量消費を目的として大量に生産され、伝達される商品文学、マスコミ文学をさす。内容的には大衆読者のための娯楽的作品ということになり、その通俗性において純文学と対置される。マス社会が生んだ文学の一形態であり、初等教育の普及、マス・メディアの成熟と発展、印刷技術の革新、流通機構の近代化などを土台にしてはじめて可能な文学の一形態である。だが、同時に、こういったマスの規定からはみ出す部分を多分にもっている文学形態でもある。

—弘文堂『大衆文化事典』、弘文堂、
1994年、460～461頁より—